

# 人権教育推進のための調査研究 大阪府モデル事業

## 研 座 演 沙 資 映 他 体 ワ

大阪府教育委員会  
大阪府教育委員会地域教育振興課  
TEL 06-6941-0351

実施年月日 実績等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盲ろう者通訳・介助者点字・パソコン研修 平成16年10月26日(火)～11月30日(火) (全5回) 参加人数：5人</li> <li>・盲ろう者点字・パソコン研修 平成17年2月10日(木)～3月15日(火) (全10回) 参加人数：5人</li> <li>・教育関係職員のための障害者理解研修 平成16年11月11日(木) 参加人数：講演=148人、講義・実習=155人</li> </ul>
主催(共催)	大阪府教育委員会
開催場所	大阪府ITステーション(盲ろう者通訳・介助者点字・パソコン研修、盲ろう者点字・パソコン研修、および教育関係職員のための障害者理解研修・講義・実習) 大阪国際交流センター(教育関係職員のための障害者理解研修 講演)
対象	盲ろう者点字・パソコン研修：身体障害者手帳の1級、または2級の盲ろう者(大阪府在住者を除く) 教育関係職員のための障害者理解研修：大阪府教育委員会、市町村教育委員会、および府立と大阪市を除く市立の盲・聾・養護学校教職員
人権課題	障害者

## 事業の目的

大阪府教育委員会では、平成16・17年にわたり、国からの委託で「人権教育推進のための調査研究 大阪府モデル事業」を実施した。その取り組みは、「盲ろう者通訳・介助者点字・パソコン研修」「盲ろう者点字・パソコン研修」「教育関係職員のための障害者理解研修」の三つが柱となる。それぞれの取り組みの目的は以下の通りである。

### 盲ろう者通訳・介助者点字・パソコン研修

通訳・介助者が盲ろう者に対して点字やパソコンの指導を行えるように、技術や操作法を習得する講座。人権教育推進のための調査研究として位置付け、より効果的、かつ効率的な指導方法の確立のための研究も進められた。

### 盲ろう者点字・パソコン研修

盲ろう者が点字の技術やパソコンの操作法の基礎を習得す

る講座。こちらでも人権教育推進のための調査研究に位置づけられ、併せて指導方法の研究が進められた。

### 教育関係職員のための障害者理解研修

府内の教育関係職員を対象に、ITステーションの持つ機能を活用し、障害者(児)の理解のための研修。



盲ろう者点字・パソコン研修

## 事業概要

それぞれの研修では、おもに以下の内容に重点を置いた教育が展開された。

### 盲ろう者通訳・介助者点字・パソコン研修

- 盲ろう者点字・パソコン研修の概要や、研修を実施するにあたっての基本的な姿勢
- 盲ろう者の障害理解
- 点字の歴史やしぐみ、読み書き
- 点訳ソフトや点字ディスプレイの概要
- 点訳ソフトの操作法
- 点字の指導法と注意点、実技(触読)

### 盲ろう者点字・パソコン研修

- 点字の概要や講座受講のための基本的な姿勢
  - 点字の触読
  - ブレイルメモの活用
- ※16マスの点字ディスプレイを装備した点字電子手帳。

### 教育関係職員のための障害者理解研修

視覚障害者を中心とした障害者のIT活用についての研修を実施した。

#### ○講演

講師：石川准さん(静岡県立大学教授)

「障害者のIT活用について」

内容：視覚障害者をはじめとした障害者の生活に、IT技術がどのように生かされるかという主題で話を進めた。たとえば、視覚の不自由な方でも、IT技術を活用すれば、今、自分がどこにいるかということが常に把握できるようになる。また、バリアフリーの意義や現状などについても、最新のIT技術と絡めて説明した。

#### ○実習

講師：杉田正幸さん(大阪府立中央図書館司書)

内容：音声化ソフト(Pc-talker、ホームページリーダー)、および点字入力ソフトなどを使った実習中心の講座。

## 連携状況

大阪府立盲学校は、教材や指導方法の開発を行った。大阪障害者団体連合会は広報活動に加え、受講者に紹介を行った。さらに大阪府ITステーションは、研修のための会場やブレイルメモを提供した。

## 特色・工夫した点

盲ろう者点字・パソコン研修では、盲ろう者の外出を支援するガイドヘルパー、触手話等による通訳者の配置、およびブレイルメモの活用を行った。

## 実施結果

### 参加者の反応・事業の反響等

- 盲ろう者点字・パソコン研修では、「もっと点字の勉強をしたい」「点字やパソコンを教えてもらえる場を紹介してほしい」といった声が寄せられた。
- 盲ろう者通訳・介助者点字・パソコン研修の修了者は、研修の成果を生かした活動を展開しているとの報告も寄せられている。
- 教育関係職員のための障害者理解研修では、「視覚障害者をはじめとした障害者理解につながった」「音声化ソフトや点字入力ソフトをはじめ使った」などの反響があった。

### 反省点・今後の課題

- 盲ろう者の方が初めて点字に触れる場合、10回の研修で全てを習得するのは困難である。今回の研修をきっかけとして、研修を修了した方がさらなる学習を望むときには、その場を紹介する必要があると認識した。
- 盲ろう者通訳・介助者点字・パソコン研修の修了者を活用し、さらなる人材を育てていくための方策も検討している。また、各市町村が応用できるモデルを考案するのも今後の課題である。
- 盲ろう者通訳・介助者点字・パソコン研修の受講者は、平成16年には点字に初めて触れる人であったため、平成17年には点字の知識がある人を募集し、効果的な学習を進めることができた。また、改善点として平成17年には、ブレイルメモの活用を一層進めた。



点字触読